

今村 豊氏

# 宇宙からイカ漁場探す

## 人工衛星で予測、有効性実証

アカイカは外洋性のイカ類であり、寿命は1年で、最大の胴の長さ(外套へこう背長)はメスで60センチ、オスで45センチと大型になります。夏期の5月から8月に北太平洋で、冬の12月から翌年2月に三陸沖で、主に船の規模が30ト以上、200ト未満の旧中型イカ釣り漁船により漁獲されます。

青森県海面漁業に関する調査結果書(属地調査年報)によると、2018年の青森県におけるアカイカ漁獲数量は4631トで、第5位、漁獲金額20億6068万円で第6位となっております。青森県にとって重要な魚種となっています。

す。年度から人工衛星を活用したアカイカ漁場形成予測システムの開発に取り組みました。

イカ釣り漁船は、一般に全経費の3分の1程度を燃油代が占めるといわれ、近年の原油価格の高騰によって経費がかさみ、08年6月にはイカ釣り漁業者が全国一斉休業する事態に発展しました。

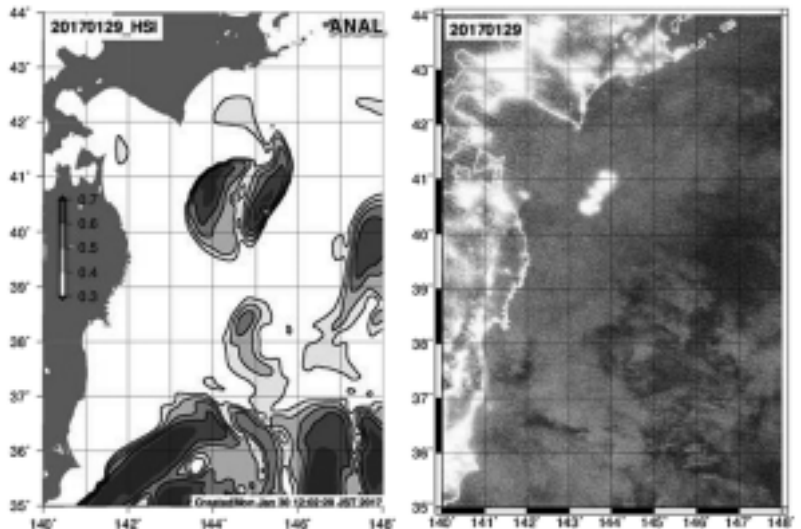
北太平洋のアカイカ漁場は広いため、昔は各漁船が探索を行い、漁場の情報を共有しながら漁業を行っていました。しかし、18年の青森県所属の旧中型イカ釣り漁船の許可件数は30隻となっており、1980年の413隻に比べ10分の1以下にまで減少し、漁場探索能力が低下しています。

そのため、旧中型イカ釣り漁船の漁場探索にかかる燃油代を節減し、経営改善が図られるよう、2009

漁獲されたアカイカは、船上で身や足などの部位に分けられたあと、凍結され水揚げされます。一尾のままの姿で水揚げされるものが少なく、見慣れないイカですが肉質は軟らかく、天ぷら、イカフライなどの冷凍食品、さきイカなどの珍味類、カップ麺などの具材などの加工原料として幅広く利用され、知らず知らずのうちに食べられています。

か、開発したシステムはスーパーコンピュータによる解析を必要とするなど、漁業者が運用するには膨大な経費がかかる問題がありました。

漁業者が経費負担できる範囲でのシステムの実用化を目指し、15年度から青森県の基本計画重点事業である「あかいか漁場予測システム実用化事業」により、関係機関と連携して研究を



アカイカの漁場予想図(a)と夜間衛星画像(b)はほぼ一致

改良し配信しています。(つづく)次回は20日付に掲載)